

地的にも、県南部を東西に貫く国道2号線バイパスと至近であります。岡山赤十字病院が、人口も多く広大である県南東部医療圏のがん医療に関して、引き続き、広域的な役割を果たすとともに、県下の拠点病院全体の相談支援体制の強化を先頭に立ってを牽引する役割を担うことが、本県のがん対策の推進に不可欠であることから、地域がん診療連携拠点病院として推薦するものです。

【(独) 国立病院機構岡山医療センター】(新規)

本医療圏における地域がん診療連携拠点病院としては3件目ですが、現存の岡山済生会総合病院及び岡山赤十字病院と比較しても、がん診療の実績では同等あるいはそれ以上であり、地域がん診療連携拠点病院の指定要件も満たしています。入院患者、外来患者とともに、20%弱をがん患者が占めています。

平成13年に岡山市中心部から岡山市北部に移転し、県中央部を南北に貫く国道53号線沿いに立地しており、山陽自動車道岡山インターチェンジにも至近であるため、患者の流れも従前の岡山市主体から真庭医療圏、津山英田医療圏等、県北部からの受診や紹介が過半数となっています。拠点病院が整備されていない真庭医療圏の医療機関(湯原温泉病院、金田病院、落合病院、近藤病院等 別紙7, 8)とも連携の実績があり、同医療圏への診療支援として非常勤医師の派遣も行っています。指定後は同地域での市民公開講座や地域連携クリティカルパスを活用した入院前と退院後の地域連携の強化などに意欲を表明しています。

また、血液内科に関しては、中・四国地域でもトップクラスの規模である、無菌治療室23床を含む40～50床を有し、急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫等に対して、化学療法、分子標的療法、造血幹細胞移植等の治療を盛んに行っています。特に多発性骨髄腫については、昭和50年代より診療に力を入れており、国内でも有数の施設と認められています。血液腫瘍に関しては、県南東部、真庭、津山英田の広い地域で国立病院機構岡山医療センターが中心的な役割を果たすことが重要です。神経芽細胞腫、ウィルムス腫瘍、肝芽細胞腫等の小児がんに関しても、専門的医療を提供しており、血液腫瘍、小児がんに関して、県南東部・津山英田・真庭の、県東部3医療圏で、院内の専門医で手術、化学療法、移植等、集学的治療を完結できる地域がん診療拠点病院として、広域的かつ重要な拠点となります。

中四国の8大学が協働でメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成を行う「中国・四国がんコンソーシアム」では、中四国の県及び地域がん診療連携拠点病院が連携し、広い地域にムラなくがん専門職を送り出すプログラムを推進していますが、国立病院機構岡山医療センターが、地域がん診療連携拠点病院として、このネットワークに加わることで、岡山県全体のがん診療連携拠点病院体制の活性化と高いレベルでの均てん化が大きく前進するだけでなく、中四国、ひいては全国のがん医療の水準の向上に大きく寄与するものと考えます。

以上のことから、地域がん診療連携拠点病院として国立病院機構岡山医療センターがその役割を担うことが、重要かつ不可欠であると考えますので、今回、地域がん診療連携拠点病院として推薦するものです。

(2) 県南西部医療圏（同一医療圏に複数の医療機関の指定が必要な理由）

- 1) 隣接する高梁新見医療圏には、現在、基準を満たす医療機関はなく、今後も整備は困難であり、連携と診療支援の実績のある医療機関を、同圏域をカバーする拠点病院として整備する必要があること。
- 2) 中国・四国がんコンソーシアムに参画し、専門職の養成を行っている川崎医科大学が、大学としてだけでなく、附属病院が地域がん診療連携拠点病院として、拠点病院のネットワークに加わり、その役割を果たすことが、全県的に一丸となって、がん対策を推進していく上で不可欠であること。
- 3) 今回推薦する両医療機関には、それぞれ「県下の各拠点病院の検査・診断技術の向上」「がん医療に携わるメディカル・コメディカルの専門職の生涯教育」を中心となって推進していく重要な役割があり、全県的ながん対策を推進していく上で、いずれも不可欠であること。

各拠点病院の役割

倉敷中央病院

- ・ 県南西部医療圏を広域的にカバー
- ・ 検査、診断で全県的な底上げに中心的な役割
- ・ 病床数、職員数ともに県下最大級

川崎医科大学附属病院

- ・ 主に高梁新見医療圏をカバー
- ・ 中四国がんコンソーシアム等にて、医療圏や県の枠を超えて、広域的に高いレベルの均てん化に寄与（がん医療の専門家の生涯教育で全県的な役割）

【倉敷中央病院】（更新）

病床数、職員数ともに県下最大級の病院であり、平成 15 年に地域がん診療拠点病院に指定され、県西部のがん医療の中核を担っています。年間入院患者数は 30,000 人を超えており、そのうち 21% をがん患者が占めています。また、外来患者数は年間約 75 万人で、そのうちの 15% ががん患者です。悪性腫瘍の手術件数、化学療法の件数も 6 病院中最大で、使用しているガイドライン数も 29 を超えています。

また、紹介数、逆紹介数はともに 10000 件を超え、圏域内の各医療機関からの検査・診断依頼がその多くを占めていることから、県下の各拠点病院の検査・診断技術の向上に関して、倉敷中央病院が中心的な役割を果たしていくことが重要です。

県南西部医療圏を広域的にカバーし、地域がん診療連携拠点病院として、同地域の高度ながん医療水準の均てん化に中心的な役割を引き続き果たしていくとともに、県全体としても、検査・診断技術の向上をリードしていくことが本県のがん対策を推進していく上で非常に重要かつ不可欠であるため、地域がん診療連携拠点病院として推薦するものです。

【川崎医科大学附属病院】（新規）

高梁新見医療圏、特に高梁市は B 型・C 型肝炎の罹患率が高く、肝がんの SMR も他圏域と比較して非常に高いのが現状ですが、川崎医科大学附属病院は、B 型・C 型肝炎のインターフェロン治療を積極的に実施しており、ウイルス肝炎対策、肝がん対策にも

大きな役割が期待されます。立地的にも山陽自動車道倉敷インターチェンジ、瀬戸中央自動車道早島インターチェンジに至近であるほか、県西部を南北に貫く国道 180 号線へのアクセスも良好です。現在も、同地域の主要な医療機関と臨床研修の協力型病院としての関係や、また、ドクターヘリの活用による医療連携体制など、医師間の「顔が見える関係」が既に構築されており、同病院が高梁新見医療圏をカバーするのに最適と考えます。

指定後は同地域の医療従事者を対象とした、がん診療における早期診断、手術、化学療法、放射線療法、緩和医療等に関する研修会の開催によるがん治療のレベルアップと専門科の枠を超えた情報交換や、同地域の住民を対象とした市民公開講座、がん相談コーナーの定期開催等に意欲を表明しています。

そのほか、腫瘍センターを設置し、専任者を置いており、特定機能病院としての地域がん診療連携拠点病院の指定要件も満たしています。また、中国・四国がんコンソーシアム」にも中四国の 9 つの大学の 1 つとして参画しており、がん薬物療法専門医や、外科系腫瘍医の養成や、中四国のがん医療に携わる専門家の生涯教育のためのカリキュラム作成に中心的に取り組んでいます。

県全体のがん診療連携拠点病院体制の活性化と、高いレベルでのがん医療水準の均てん化を図るために主要な医療機関が一丸となつてがん対策を推進するには、川崎医科大学病院が、大学としてだけでなく、地域がん診療連携拠点病院として、高梁新見圏域のがん診療レベルの向上や、県全体のがん診療に携わる専門職の生涯教育に中心的な役割を果たしていくことが重要かつ不可欠であると考えますので、今回、地域がん診療連携拠点病院として推薦するものです。

(3) 高梁新見医療圏・真庭医療圏

前述のとおり、両医療圏には、地域がん診療連携拠点病院の指定要件を満たす医療機関は現存せず、現存の医療機関を指定要件を満たすように機能の充実を図ることや、指定要件を満たす医療機関そのものの移転・新設は現実的でないことから、それぞれ、川崎医科大学附属病院、(独) 国立病院機構岡山医療センターを、各医療圏をカバーする地域がん診療連携拠点病院として推薦します。

(4) 津山英田医療圏

【津山中央病院】(更新)

県北部で指定要件を満たす唯一の医療機関であり、平成 17 年 1 月にがん診療拠点病院に指定されました。救急医療やがん医療をはじめ、県北部の中核的な医療機関として、スタッフや医療器械の充実を図っており、県内でも先駆けて電子カルテを導入したほか、紹介 10000 件以上、逆紹介 5000 件以上で、圏域の多くの医療機関との積極的な連携や『かかりつけ医』の推奨、臨床研修医の養成などに精力的に取り組んでいます。

引き続き、同医療圏のがん医療体制の確保と、県全体のがん対策を推進していく上で、津山中央病院が、同圏域の拠点となることが重要かつ不可欠であり、地域がん診療連携拠点病院として推薦するものです。

(1) がん医療提供体制

本県のがん医療提供体制の方向性、各拠点病院の地域分担、機能分担、連携方策については、推薦意見書のとおりです。

整備方針の決定過程については、以下のとおりです

① 協議会における検討の有無 有

委員構成：医師会代表（2名）、病院協会代表、中核市保健所長（2名）、

県保健所長会代表、看護協会代表、県保健福祉部長

名称：岡山県生活習慣病検診等管理指導協議会及びがん診療拠点部会

開催日時：平成19年10月18日（木）

② 現地調査や病院関係者からのヒアリングの有無 有

・推薦医療機関関係者から個別にヒアリングを実施

・これに先立ち、本県の拠点病院体制の現状と課題、整備方針、連携方策等につき県がん診療連携拠点病院と協議

③ 国の整備指針を上回る選定基準の有無 無

※国のがん対策推進基本計画の拠点病院に関する個別目標は考慮

(2) 県がん対策推進計画におけるがん診療連携拠点病院の役割

今後策定する県がん対策推進計画に、以下の内容を盛り込み、推進していく方針です。

(がん診療連携協議会)

- がん診療連携協議会を、平成20年度中に、拠点病院だけでなく、医師会等、がん診療に関わっている多方面の関係団体からも関係者が参加する協議会に発展させ、各職種、各機関が連携して県内のがん医療を推進していくための連絡会議を定期的に開催する。

(現状) 県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、県

(目標) 県がん診療連携拠点病院、地域がん診療連携拠点病院、県

県医師会、県病院協会、県看護協会、県薬剤師会、その他

(情報提供の充実)

- 全ての拠点病院のホームページで、平成20年度中に、がんの特化したページを作成、充実を図り、セカンドオピニオンが可能ながん腫や、得意としている検査、治療等について県民にわかりやすく情報公開するとともに、他のすべての拠点病院と相互リンクし、情報を共有する。当該ページは、トップページの見やすい場所にバナー等で入り口を設ける。また、県のホームページからも閲覧できるよう、県のホームページの充実を図る。

(現状) がんの特化したページ 4 拠点病院 / 7 拠点病院

わかりやすい入り口 2 拠点病院 / 7 拠点病院

(目標) がんの特化したページ 7 拠点病院 / 7 拠点病院

わかりやすい入り口 7 拠点病院 / 7 拠点病院

(緩和ケア研修)

- 平成20年度より、拠点病院の緩和ケア指導者、緩和ケアチーム関係者等の協力を得て、緩和ケア研修を実施する。

- ① 国立がんセンターでの緩和ケア指導者研修、精神腫瘍学指導者研修を受講した指導者および緩和ケア病棟を有し10年の実績のある岡山済生会総合病院の緩和ケアスタッフを中心に、県内のがん医療に携わる医師を対象に研修会を実施(厚生労働省が提示する予定の緩和ケア研修モデルプログラムに準じた2日間コース)

(現状) 実績なし

(目標) 3回実施(50人×3回=150人)

- ② 緩和ケア病棟を有する拠点病院(岡山済生会総合病院)において実地研修を行う。(対象:各拠点病院及び地域の医療機関でがん診療に携わっており、緩和ケア病棟での実地研修を希望する医師及びコメディカル)

(現状) 実績なし

(目標) 随時実施(1ヶ月程度 各期間1名ずつ)

- ③ 全ての拠点病院において、院内及び地域の医療機関の医師及びコメディカルに対する研修会を実施(数時間程度の講義形式等)

(現状) 5 拠点病院 / 7 拠点病院

(目標) 7 拠点病院 / 7 拠点病院

(地域連携クリティカルパス)

- すべての拠点病院において、5年以内に、わが国に多いがん（胃がん、肺がん、大腸がん、肝がん、乳がん）に関する地域連携クリティカルパスを整備し、実際にパスに基づいて地域の医療機関との連携体制を構築する。

(現状) 0 拠点病院 / 7 拠点病院

(目標) 7 拠点病院 / 7 拠点病院

※ 標準的なパスについては、がん診療連携協議会等で県も協働で作成の検討を行う。

(がん診療に携わる専門スタッフの配置)

- すべての拠点病院において、2年以内に、医療心理に携わる専任者を配置する

(現状) 6 拠点病院 / 7 拠点病院

(目標) 7 拠点病院 / 7 拠点病院

- すべての拠点病院において、5年以内に、相談支援センターに、がん対策情報センターによる研修を修了した相談員を配置

(現状) 2 拠点病院 / 7 拠点病院

(目標) 7 拠点病院 / 7 拠点病院

(相談支援連絡会議)

- すべての拠点病院の相談支援センターの相談員等が参加する、相談支援に関する連絡会を定期的を開催する。

(現状) 平成19年3月に1回実施

(目標) 年1回以上実施

※ 本連絡会にあっては、独立した相談支援センターに専従の相談員を配置している岡山赤十字病院が本県の各拠点病院の相談員の資質向上を中心となって担うこととしており、同病院において蓄積された事例データの共有（個人情報の取扱いには十分に配慮）が不可欠です。

(がんに関する主要な指標の公表)

- すべての拠点病院で、5年以内に、わが国に多いがん（胃がん、肺がん、大腸がん、肝がん、乳がん）について、5年生存率を公表する。

(現状) 1 拠点病院 / 7 拠点病院

(目標) 7 拠点病院 / 7 拠点病院

